

しおらしい螺旋階段

牧師 山本 護

台風が去った雨あがり、教会の庭で草刈り機を振り回して、勢いづいた動作を寸で
のところで止めた。機械を肩から降ろし、自生していたネジバナをじっくり見る。珍しい
山野草ではないけれども、おまえさんはなぜ螺旋階段みたいな花をつけるのかね。すると
どうだろう、いろいろな想念がコポコポ浮かびあがって来ました。



ネジバナの学名は「*Spiranthes* ～」で、英語なら「*spiral*」。スパイラルとはこの頃よく耳にする言葉で、デフレスパイラルとか負のスパイラルとか、回転しながら下降していく感じがします。このネジバナは、下部の花は咲ききっていて、上部は花開いたばかり。つまり回転しながら上昇し、地と天を結んでいる竜巻と方向も相似形です。

「主なる神が地と天を造られたとき、地上にはまだ野の木も、野の草も生えていなかった。主なる神が地上に雨をお送りにならなかったからである。また土を耕す人もいなかった(創世2:4~5)」。主なる神は、台風で恵みの雨をお送りくださり、土も幾らか耕されて、野の草ネジバナが地から天にむかって上昇しています。

螺旋には「*helix*」という英語もあり、こちらは新約聖書原典と語幹が同じ。その用法は「天は巻物が巻き取られる(*helissomenon*)ように消え去り、山も鳥も、みなその場所から移された(黙示6:14)」という感じです。終りの日、回転しながら天にむかっている命は天もろとも「巻き取られ」、神の御手の内に移されていくようなイメージでしょうか。

最初の書・創世記の「地」と、最後の書・ヨハネ黙示録の「天」の間であって、可憐でしおらしいネジバナは回転しながら己が命を天に向けて伸ばしています。じっと見つめていたら想念が螺旋状に上下し、今さらながらに、まったく聖書というのは神の言葉なのだな、と新鮮に思い返しました。

草刈りを続ける体力は充分にありましたが、作業をやめて茶をいれ、神の息吹に創造されていく秋の庭を陶然と眺めました。「いかにもやさしく、しおらしく見える植物でも、長い間の風雪に耐え、世の流れをじっと見てきているだけに、実は並々ならぬふてぶてしさを裡に秘めているわけである(勅使河原蒼風)」。

ネジバナはもとより、ツリガネニンジン、ホタルブクロ、チゴユリ、テンナンショウ、アマドコロ、ホトトギス、ギボウシ、ミズヒキ、アザミ、各種のスミレに指示されながら、まことに手間のかかる草刈りの作法を学んでいます。Ω